

《担当者名》太田亨 ohta@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

小児は、出生時から思春期に至るまで、身体・神経の発達段階で、さまざまな疾患や発達障害を生ずる。また、出生直後の新生児の病態は、その後の生涯の生活に影響する。小児の理学療法を学ぶためには、小児の出生からダイナミックに変化する正常発達と、それぞれの障害・疾患を理解していなくてはならない。新生児・乳幼児・学童・思春期における正常と病態を理解し、小児保健学、小児診断学、小児疾患病態学などの知識を修得する。

【学修目標】

医療従事者としての、小児の患者に接したとき、その疾患に適切な対応ができるようになる、次のような医療知識を身につける。

1. 出生から、新生児期、乳児期、幼児期、学童期に運動、知能発達のマイルストーンが説明できる。
2. 小児の栄養・バイタルサインが説明できる。
3. 周産期・新生児期特有の疾患が列挙できる。その疾患の将来の影響が説明できる。
4. 先天奇形・染色体異常が説明できる。
5. 小児期の感染症の種類・症状・治療が説明できる。
6. 小児期の免疫異常、代謝異常が説明できる。
7. 小児期の内分泌疾患、思春期に移行する際の異常が説明できる。
8. 小児独特の腎臓疾患が説明できる。
9. 小児の神経疾患、筋疾患が説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	成長・発達・栄養	小児の成長・身体計測・成長の評価・臓器の発育・母乳・栄養について学ぶ。	太田亨
2	新生児疾患	新生児仮死・呼吸障害について学ぶ。	太田亨
3	新生児・先天異常	新生児の疾患・染色体異常・先天性奇形について学ぶ。	太田亨
4	先天異常	染色体異常・先天性奇形について学ぶ。	太田亨
5	感染症	ウイルス感染症について学ぶ。	太田亨
6	感染症	細菌感染症・予防接種について学ぶ。	太田亨
7	免疫異常・アレルギー疾患	免疫不全・喘息・アトピー性皮膚炎などについて学ぶ。	太田亨
8	呼吸器疾患	クループ症候群・肺炎・喘息性気管支炎などについて学ぶ。	太田亨
9	循環器疾患	胎児循環・先天性心奇形について学ぶ。	太田亨
10	代謝性疾患	先天性代謝異常・小児の糖尿病・低血糖について学ぶ。	太田亨
11	内分泌疾患	低身長・思秋期早発症・甲状腺機能異常・尿崩症について学ぶ。	太田亨
12	血液・悪性腫瘍・中毒・救急医療	白血病・小児の悪性腫瘍・誤飲・溺水について学ぶ。	太田亨
13	腎疾患・尿路系疾患	小児の急性腎炎・慢性腎炎、先天性の腎・尿路系異常について学ぶ。	太田亨
14	神経	脳性麻痺・発達異常・痙攣性疾患について学ぶ。	太田亨
15	神経	筋肉疾患・自閉症について学ぶ。	太田亨

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 100%

【教科書】

白木和夫 他 編 「ナースとコメディカルのための小児科学」 小児医事出版社 2014年

【参考書】

西 基 他 「New Simple Step小児科」 総合医学社

【備考】

Google FormやManabaを活用し、資料配布や授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。

【学修の準備】

予習は、各時限の講義項目の教科書領域を、一読し理解しておくこと(80分)。

復習は、講義項目のプリント内容を記憶すること(80分)。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP3) 理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

(DP4) 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

医師

【実務経験を活かした教育内容】

小児科医師としての実務経験を活かした講義をすることで、医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。